



オアシス

文責：副学長
桑原雅次

出雲芸術アカデミーだより 2019年8月9日発行 第16号

今年の夏もうだるような暑さが続き、体力が少しずつ失われていくように感じているのは私だけでしょうか…？ 近年のように極端な気候は、私がか子供のころと比べ想像ができないほど変化しているようです。クーラーなどは勿論なし、家に閉じこもることもなく外遊びがほとんどで、大汗をかいたら庭でたらいに水を入れ行水…。夜は、害虫対策に蚊帳をつり、窓を全開にして熟睡。これが夏の風物詩であったことが思い出されます…。便利な世の中になりましたが（？）、今から思えば昭和30年代の不便な生活も、毎日をワクワクしながら過ごしていた日々がとても懐かしく、当時の方が今より豊かに暮らせていたのではと感ぜられる昨今です…。

◎ ビッグ・ハートフル・コンサートで気持ちも軽やか！

8月3日（土）出雲市合併15周年記念事業として、「0歳児から聴けるはじめてのオーケストラ」と題したビッグハート出雲主催のコンサートが盛大に開催されました。当日は、暑い中にもかかわらず、当日券が完売するなど、たくさんの親子連れで客席がいっぱいになりました。オーケストラというと一般的には堅苦しいイメージがありますが、音楽表現に関してはオーケストラの右に出るものはないといわれるくらい壮大で、あらゆるジャンルも豊かに表現できる演奏が可能です。今回のオーケストラは、本アカデミーの別科オーケストラ・レパートリーで学ぶ受講生と講師で構成されました。中学生から大人までの幅広い年齢層のオーケストラから奏でられる音色は異彩を放ち、プロとアマが一体となった本アカデミーならではの響きと編成が魅力の一つです。今回の聴衆は子どもが相手とはいえ、手抜きは一切なく、オーケストラファンが聴いてもとても素晴らしい演奏でした。本物に小さい時から接することの大切さを改めて感じたところです。

プログラムは、クラシック界では有名な“チャイコフスキー”や“ブラームス”、“オッフェンバック”という作曲家の曲目を取りあげ、中井芸術監督の親しみのこもったわかりやすい解説と共に、会場の皆様は本格的なクラシック音楽を堪能できたことと思います。その他にも軽快な音楽が持ち味の“アンダーソン”の曲や、映画音楽からは「アナと雪の女王」メドレーが演奏され、小さいお子様にも聴きやすい曲目で盛りあがりました。また、楽器紹介の場面では、各楽器の特徴を紹介し、全体演奏はオーケストラでは珍しいサクソフォン独奏による「コナンのテーマ」を全員がリズムに乗って華々しく紹介しました。プログラムの中に



は、指揮者体験コーナーもあり、就学前の幼児と小学生の3名が挑戦しました。指揮者は演奏をしません、あらゆる指示を出す重要なポジションです。実際にはどのような役割をしているのかわからないことが多いのですが、この体験を通してとても重要なポストであることが、指揮体験をした3名や聴衆にもよく理解できたことと思います。

今回のコンサートには、多くの幼児の皆さんが来場され、楽しんでいただけたことと思います。鑑賞マナーがとてもよく会場と演奏者が一体となったとても良いコンサートになりました。これを機にクラシック音楽をさらに楽しんでいただけたらとてもうれしい限りです。

◆名誉教授（故）渡部修明氏を偲んで

8月1日、出雲芸術アカデミーにとっては、とても大切な方を失いました…。本アカデミーの創成期の事務局長として、出雲市から受けた予算を一手に引き受けて運営、手腕を発揮されました。また、音楽院を開設するにあたっては、受講生の募集から指導講師の依頼、そして、貸し出し用の楽器選定については、出雲市と粘り強い交渉を経ながら一流の楽器をそろえてくださるなど、功績をあげれば切りがないほどお世話になりました。中でも、中井芸術監督もうならせるほどの突出した音感をお持ちで、本アカデミーの芸術性や出雲フィルの演奏技術の向上には欠かせない、まさに影の功労者としての存在に、私たちは敬意を表したいと思います。一方で氏の功績として、永年の吹奏楽を通しての活動も忘れてはなりません。アマチュアバンドとはいえ、妥協のない本物志向を大切にされ、出雲市のみならず日本の吹奏楽界の発展に大きく寄与されたことは、全国の吹奏楽ファンなら誰でも知るところと思われる。一線を退かれた後も中国吹奏楽連盟の理事長として、吹奏楽界のリーダーとしての役割を立派に果たされたことは、氏の大きな功績として後世に残ることと思います。先生！大変にお世話になりました！残された私たちは、氏の教えを引き継ぎ、及ばずながら精いっぱい頑張ります。

つぶやき

競馬場に行ったことのない人でも、競走馬「ディープインパクト」の名を知らない人はいないのではなかろうか…。百戦錬磨の名馬が先ごろ亡くなったと報道されていました。その記事の中で騎手の武豊氏が、「ディープは走るのではなく飛んでいる感じ」と言い、他を寄せ付けない圧倒的な強さが印象的な名馬であったことを懐かしそうに振り返っていました。しかし、圧倒的な強さを誇ったディープには、デビュー前に厩舎に入ってきたときは、あまりにも体の小ささにスタッフが拍子抜けしたというエピソードがあります。また、ディープは横に馬がいるといくら鞭を入れてもスピードが伸びなかったそうで、他の馬と並走すること自体を楽しむ気質があったことを関係者が語っていました。そのようなことを知った私は、ディープインパクトという馬が愛おしくてならなくなりました。実際にディープは何を思って走っていたのか…。人間の欲望だけに応えるのではなく、楽しみながら走ることができていたことに少し救われたように感じました。